

# ESD-J オンラインセミナー 第3回「企業とESD/SDGs」

2021年1月23日(土)

福井光彦

# 本日の内容

- SDGsに企業が取り組む意義、必要性
- ホンダの事例
- SDGsは12兆ドルマーケット
- SDGsとビジネスチャンス
- 住友化学、オムロンの事例

# 企業にとって取り組む必要性～リスクと機会

## リスクの側面

- 対応しない、あるいは対応が遅れると、特に長期的な視点ではリスクとなる。  
(規制への対応の遅れ、レピュテーションリスク、ESG投資の流れ)。最悪のリスクとしては公害等の健康被害リスク。(チッソの例)

## 機会(チャンス)の側面

- 社会的課題の解決に貢献し、社会的な評価を受ける。
- 新しい視点の商品・サービス開発につながる。SDGsは12兆ドルマーケット。  
(ホンダの例)

## (2) ホンダの事例

- ・1970年アメリカ、マスキー法の成立(NO<sub>x</sub>等の有害廃棄物を10分の一に規制)(日本版マスキー法は1978年実施。アメリカは廃止)
  - ・GM, フォードの反対。トヨタ、日産等の困惑の中でホンダの本田宗一郎がチャレンジ。業界初で規制をクリアしたCVCCエンジンを開発。
  - ・「このチャンスを逃してはいけない」というビジネス的な動機と、根底には「社会の役に立ちたい」という思い。研究者たちが研究所に掲げた横断幕は「青い空を未来の子供たちに」。
- これは現在でもホンダのグローバル環境スローガンとなっている。
- ・トップと現場の理念の共有。トップダウンとボトムアップの融合。

### SDGsは12兆ドルのビジネス機会を生む

- 2017年のダボス会議に向けて発表されたレポート  
“Better Business Better World”

Business & Sustainable Development Commission (BSDC)



- 2030年までにエネルギー、都市、食料、農業の各分野で、少なくとも、想定GDPの10%にあたる年12兆ドルのビジネス機会をもたらし、3.8億人の雇用を生む

●環境への意識の高まりは、新たなビジネスチャンスを生む

(自然エネルギー、省エネルギー、リフォーム・修繕・リサイクルビジネス...)

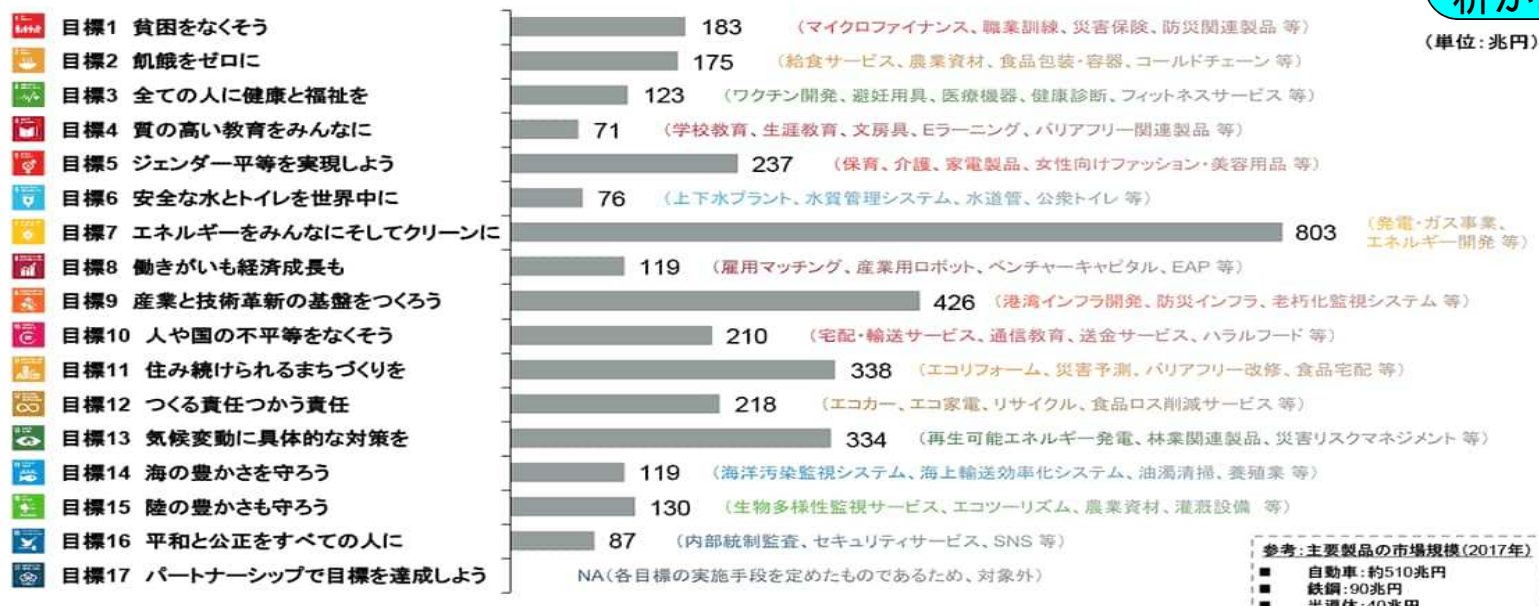
●今後全地球的に環境制約が高まる中、環境性能の優れた技術・製品をいち早く開発すれば、世界市場で先行者利益を得ることができる

(低公害車、燃料電池、太陽光発電...)

企業にとってSDGは、「よりよい世界」を作るのに役立つビジネスの糸口を示している

SDGsに関連したビジネスの市場は現時点で世界で約1300兆円との分析がある

<SDGsの各目標の市場規模試算結果(2017年)>



2017年12月 (一財)日本規格協会 SDGsビジネスの可能性とルール形成の調査結果報告書

2017年12月デロイトトーマツコンサルティング合同会社 SDGsビジネスの可能性とルール形成 最終報告書

## (1) 住友化学

・住友化学ではTSPの標語の下、取組を推進。

T: トップコミットメント

S: ソリューション(SSS)

P: パーティシペーション(全員参加)

・SSS(スミカ・サステイナブル・ソリューション)

自社製品・技術とSDGsの課題を紐づけた認証制度を設定。各工場、研究所、グループ会社から推薦された製品等を認定委員会で審査し、第三者機関の助言を受け認定する。

2016年度の認定は48の製品・技術で売り上げ規模は3813億円。

・きっかけとなった取り組みである「オリセツネット」事業では、感染症対策のみならず、雇用、教育、ジェンダー等幅広い分野で、経済・社会・環境の統合的向上に貢献。



- 全員参加～サステイナブルーツリー運動

「仕事を通じてのSDGsへの貢献」の決意を各人あるいは職場で投稿。述べ参加人数3万人、閲覧数2万回。

- ・経営として取り組む最重要課題～7つのマテリアリティを設定

社会価値創出に関するマテリアリティ～環境、食糧、ヘルスケア、ICT  
各分野への貢献

将来の価値創造に向けたマテリアリティ～技術・研究開発、デジタル  
革新、ダイバーシティの推進



## (2) オムロン

- ・ オムロンは2015年に企業理念を改定。

新企業理念の浸透、実践に合わせ、SDGsを踏まえたサステナビリティ施策の検討、推進、中期経営計画の検討、推進を三位一体で推進。

・サステナビリティ課題として、事業を通じて解決する社会的課題4項目、ステイクホルダーの期待に応える(事業基盤を支える)社会的課題11項目を選定。それぞれ具体的な数値目標を掲げ取り組んでいる。

(事業を通じ解決する社会的課題)

①FA②ヘルスケア③モビリティ④エネルギーマネジメント

(ステイクホルダーの期待に応える社会的課題)

ダイバーシティ、人権、CO2削減など11項目

- ・推進のマネジメントとして、PDCAサイクルで執行役員会議で議論。取締役会にも報告。

◆オムロンウェブサイト:

[https://sustainability.omron.com/jp/omron\\_csr/sustainability\\_management/](https://sustainability.omron.com/jp/omron_csr/sustainability_management/)

・オムロンでは取締役・執行役員の業績連動報酬の一部が、ESGやSDGsに関するサステナビリティ評価を踏まえた金額となっている。

・報酬は基本報酬＋短期業績連動報酬＋中長期業績連動報酬  
中長期業績連動報酬は基準額×業績(売上、利益)評価×ROE評価  
×サステナビリティ評価  
※サステナビリティ評価はDJSIの調査に基づく評価